



「未来の自分が後悔しないために」

こんにちは！今年の4月から関目教室で働いている、岡宗裕昌です。皆さんそろそろ新しい学年、生活リズムに慣れたころでしょうか。開智に入ってからというもの、先生から勉強勉強と言われ続け、もうすでにかなり耳タコだと思います。では、ここで皆に考えてほしいのですが、本当に「勉強」ってそこまで大切なんでしょうか。残念ながら、その答えは私たち大人にしかわかりません。

なぜなら勉強した(あるいはしなかった)結果というのは、大人になるまで目に見えて分からないからです。正直に言ってしまうと、楽しい大学生活が送れるかどうかは自分自身が行きたい大学に行けたかどうかは大きく左右されます。自分自身が行きたい大学に行けるかどうかは、賢い高校に行けたかどうかによります。賢い高校に行けるかどうかは中学校で勉強を頑張ったかどうかによります。大学で自分の興味のある分野が勉強できないというのはいかに恐ろしいことかを実感することができないのです。

だから、ある程度人生経験を積んできた『大人』である先生たちは、「勉強することが人生で大事なことのひとつである」、とみんなに伝え続けているのです。ただ、誤解して欲しくないのは、勉強のみが大事というわけではない、ということです。友達、趣味、部活も絶対必要です。でも、TikTokばかりしているぐらいなら勉強したほうがいいよと思います。ここまで説教くさいこと長々と書きましたが、すべて本心です。勉強をサボっている人を見たら勿体ないなと感じるのも事実です。ここまで読んでくださった皆さんにとってこの文章が少しでも時間の使い方を考えるキッカケになってくれることを願っています。



アイラのちょっといい話

TEACHER'S VOICE イラストレ・アイラ(トーキングキッズ)

カフェラテと私

こんにちは、あいらです。普段は学童にいたり、Talking Kidsや中学生の授業を担当しています。今日は少しか、仕事以外の「好きな時間」についてお話ししたいと思います。生徒や先生たちからは「紫先生」と呼ばれることが多く、最近では自分でも「むらさき先生です!」と名乗っています。それくらい紫色が大好きです。休日は、「青の交響曲」や「しまかぜ」などの特急列車に乗って出かけたり、写真や動画を撮ったりして過ごしています。最近読書も始めて、とても楽しんでいます。帽子やスニーカー、カフェのショップカードを集めるのも好きで、気づけばかなり増えていました。そんな私の一番の趣味が、カフェ巡りです。にぎやかなお店も、静かなカフェも、それぞれ違った魅力があります。お店の雰囲気やインテリアを見たり、「このお店、なんだか落ち着くなあ」と感じたりする時間がとても楽しいです。「行ってみたい」と思ったら、近くでも遠くでもあまり気にせず行ってしまいます。そして、どのカフェでも必ず頼むものがあります。それは、ホットのカフェラテ。理由は、ラテアートが好きだからです。カップが運ばれてくるまで、「今日はどんなデザインかな」と待つ時間が好きです。ハートや葉っぱ、ときには予想外のアートも

あって、見るだけで少し嬉しくなります。でも、私はラテアートをリクエストしません。どんなものが来ても、「今日はこれなんだな」とそのまま楽しみたいからです。私にとって、コーヒーを飲む時間はとても大切な時間です。実は、コーヒー発祥の地と言われているエチオピアでは、コーヒーはただの飲み物ではなく、“儀式”のような存在だそうです。伝説によると、カルディというヤギ飼いが、ある木の赤い実を食べたヤギたちがいつもより元気に跳ね回っているのを見つけ、その効果に気づいたことが始まりだとされています。現在のエチオピアでも、コーヒーはただの飲み物ではありません。人々はコーヒーを囲みながら、



地域のことを話したり、近所の人を迎えたり、友人とのつながりを深めたりします。ゆっくりと時間をかけてコーヒーを味わいながら、人と人との関係を大切に、静かで温かい時間です。忙しい毎日の中では、つい急いでしまったり、考えすぎてしまったりすることがあります。でも、温かいカフェラテを飲みながら少し立ち止まると、不思議と心が落ち着きます。少し大げさかもしれませんが、私はこういう“ほっとできる時間”が人生には必要だと思っています。ラテアートみたいに、自分では決められないこともあります。でも、「何が来るかな」と楽しみに待てたら、毎日少し楽しくなる気がします。みなさんにも、ほっとできる時間がありますように。

Growing

生徒と保護者と先生の共有ニュースレター

June 2026
Vol. 165
毎月10日発行

【本部】
城東区今福西2-1-8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662

【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984

【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722

【高殿教室】
城東区成育 5-22-10-2F
TEL.06-6786-1008

【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563

【カイクベ】
城東区今福西 3-4-9
TEL.06-6180-6565

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000

【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117

【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467

【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220

【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011



高木 秀章(塾長)

AI時代の到来と、これからの教育

ー 10年後の世界と、子どもたちに必要になる力ー

最近、異業種の会で「教育とAI」をテーマにした講演者を探してほしいと頼まれました。その準備のために、ネットや動画、本を調べているうちに、思わず「えっ、本当に?」と驚くような未来の話が次々と出てきました。どうやら、私たちが想像しているよりもずっと早く、社会は大きく変わるようとしているようです。■2034年の暮らしは、もう“遠い未来”ではない 最近読んだ本で特に印象に残ったのが、中島聡さんの『2034』です。著者はマイクロソフトで活躍した伝説的エンジニアで、今も第一線で活躍されている方。以前何かの動画で見かけて「すごく頭のいい人だな」と感じ、本を手に取りました。この本は小説の形で書かれていて、2034年の暮らしがとてりリアルに描かれています。



▲小説仕立てで実感が湧きます。「10年もたたないうちにこんな未来が来るの!」と驚いています。

たった8年後には、家庭に300万円前後の家事ロボットが入り、家族の会話を聞きながら、「そろそろ洗剤を買っておきましょうか」「お疲れのようです。〇〇旅館が20%オフですが予約しますか」といった“提案”をしてくれる世界になるというのです。「いやいや、さすがにそれは…」と思っていたら、今週の朝日新聞の一面に「アメリカで2万ドルの家事ヒューマノイド販売」という記事が載っていました。フィクションだと思っていた未来が、すでに現実として動き始めています。■2030年:ホワイトカラーの多くがAIに ■2040年:ロボットがブルーカラーも担う時代へ 専門家の予測を調べていくと、驚くほど多くの人が同じ未来像を語っています。●2030年までにホワイトカラーの仕事の多くがAIに置き換わる ●2040年にはAI搭載ロボットがブルーカラーの仕事も担うようになる ●仕事が減るため、ベーシックインカムが導入される可能性が高い まるでSFのようですが、どうやら“本気で起こる未来”として語られています。ただし、ベーシックインカムはあくまで“最低限の生活保障”です。豊かに生きるためには、自分で価値を生み出す力がようになります。つまり―― 「AIを使いこなしたうえで、どう価値を出すか」が問われる時代になるということです。■では、教育はどう変わるのか? 仕事のカタチが変わるなら、当然、教育で求められる力も変わります。

受験そのものはなくならないでしょうが、問われる力は確実に変化しています。

これから必要になるのは、次のような“地力”です。①「正解を早く出す力」より「考え抜く力」が重要になる AIは正確で高速です。人間が「スピード勝負」で勝つことはできません。しかし、問題の本質を見抜き、問いを立て、考え抜く力は人間にしかできません。②「知識量」より「知識をどう使うか」が問われる 知識そのものはAIが補ってくれます。大切なのは、知識を組み合わせ新しい価値を生み出す力です。③コミュニケーション力は“これまで以上に”重要になる AIが発達するほど、人間同士の協働が価値を持ちます。相手の意図を理解し、自分の考えを伝え、チームで成果を出す力は、どんな時代でも必要です。

最近の入試問題を見ても、「思考力・判断力・表現力」を重視する傾向が強まっています。文章量は増え、単なる暗記では解けない問題が増えていきます。“自分の頭で考える力”が、これまで以上に求められているのです。■子どもたちに必要なのは、“どんな未来でも動ける力” 未来は誰にも完全には予測できません。しかし、どんな未来が来ても対応できるように、今から“土台”を育てることはできます。AIが得意なことはAIに任せ、人間にしかできない価値を磨く。そのための基礎となるのが、先ほど挙げた“地力”です。

●論理的に考える ●文章を読み解く ●仲間と協力する ●自分の意見を言葉にする こうした力は、どんな時代になっても価値を失いません。■ 過渡期は大変。でも、未来はきっと“楽しみ”になる AIの進化によって、社会は大きく変わります。過渡期は混乱もあるでしょう。しかし、長い目で見れば、私たちの暮らしはより豊かで便利になっていくはずです。教育の役割も、ますます重要になります。子どもたちが未来を前向きに生きられるように、私たち大人が“変化を楽しむ姿勢”を見せることが大切だと感じています。子どもたちの「地力」を育てる教育 教育もより本質に近づいていくと感じています。

カイチからの お知らせ ■6月13日(土)・6月20日(土)は中学生対象に期末テスト対策の9時間自習を13時~22時で行います。みんなで頑張りましょう。 ■6月28日(日)は珠算上級・段位検定です。時間については、各教室にお問い合わせください

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

今津教室頑張ってます!!

岡本 泰行(今津教室)

ジメジメとした日が続きますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今津教室はそのようなジメジメした空気を晴らすような元気いっぱいの子供達の声が聞こえます。

思えば約13年前、3月1日の開校までのスケジュールが大変バタバタし、工事等もギリギリになり、とりえず車で関目教室から机と椅子のセットを4つだけ持ってきて入塾説明を行い、直前で完成したので覚えています。それが今では予約待ちができる状態(現在中学1年生の集団クラスは予約待ちです)となり、地域の皆様に支えられていると改めて感じました。ありがとうございます。

中学生は新学年はじめての定期テストがありました。個別指導クラスも集団クラスも3時間自習や9時間自習など自習の時間がたくさんありました。こんなに毎日勉強したのは初めてかもしれませんね。9時間自習の後半は1年生はやはりバテてきておりましたが、3年生はさすがですね。22時までしっかり取り組めておりました。2年もたつとこんなにも変わるのかと改めて思いました。あとはみんなの結果が良いものとなるように祈るばかりです。

また、教室の掲示板にはテストの結果やまとめノートなど特に3年生のものを貼りだしております。新しい貼りだしになったら、みんな前にきて廊下がごった返します。こういう貼りだしは賛否あるかと思いますが、お互いを刺激しあう意味では良いことかと思えます。

また中学3年生は高校入試がある大切な年です。悔いのないようにこの1年を過ごしましょう。勉強漬けになってイヤと思うときが多々あるかと思いますが、この「勉強をする」「目標に向けて努力をする」という経験は大きくなった時に必ず役に立つ時が来ます。



▲張り出しが気になります!



▲中3にもなれば集中力が違います

小学部の5、6年生は元気いっぱい授業に来てくれています。特に月末に行われる診断テストに向けて頑張っております。診断テスト直前の土曜日には小学生の子たちがお互いに誘い合って自習に来ています。こちらは特に強制はしていませんが、小学校6年生の子は昼から夕方6時くらいまで勉強する子もおり、感心しております。新5年生たちもちょくちょく土曜日勉強をしに来ていました。勉強とはやはり自主性が大事ですね。

私が学生時代(体育会でビシバシやられていた時)にずっと言われていたことが「目標を持つ」→「目標との差がわかる」→「何をしないといけないかわかる」→「行動する」→「行動するから結果が変わる」→「反省・振り返りをする」→「行動する」→「結果が変わる」と部活の顧問の先生に言われながら全国を目指して活動していました。小・中学生の何も言われなくても「自習に来る」というのは「行動が出来ている」ことですね!ということは自習と結果は後でついてきます。早くに結果が出る人、時間がかかる人などそれぞれですが必ず結果となって現れる時が来ます。コツコツ頑張らしましょう!

キッズ部門ですが、おかげさまで今年は昨年スタート時よりかなり多くの子供達に通ってもらっております。今までトーキングキッズを第2教室(今でも水曜日は第2教室ですが)で行っていたのですが第1教室の方でまとめて行っていますので1時間にたくさんの子も通してもらっています。だから、他の教室の笑い声や、「よっしゃー」と何かに正解した声?や最近の学校であったことや家であったことなどいろいろ話聞いてきます。(もちろん集中して行うときは集中しています)なんかこういった

わちゃわちゃしている感じは楽しいですね。カイチは塾なので勉強をしに来るところではありますがいろいろ先生と話したり、いろいろな部門の子や他学年の子、違う学校の子の様子を見て刺激を受けたりと学校とはまた違う環境だと思えます。ルールを守るのは当然ですが、「なんか来るのが楽しい」と思ってもらえるようにキッズクラスは取り組んでいます。



▲バスカルキッズで楽しく学ぶ子供たち今年もよろしくお願いたします。



また今年からカイチ学童が本格的に始まりました!写真の通り車が走っています!学童の部屋はなんてきれいな教室なのでしょう!こちらもよろしくお願いたします!!

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

低学年指導の大切さ

伊藤 喜章(万緑会)

バスカルは「人間は考える葦である」と述べました。人は自然の前では小さな存在ですが、考えることができます。バスカルキッズはその理念をもとにあります。その理念を発展させた、能力開発クラス及び小学受験クラスからなる万緑会でも、知識や技能そのもの以上に、「考える力」と「考える習慣」を育てることを大切にしています。小学校低学年は、学び方や生活の型、人との関わり方が形づくられる時期であり、この時期に「自分の頭で考えて行動する」経験を重ねることが、その後の学力や生き方の土台になります。

万緑会での実践:

小学受験クラス/能力開発クラス

万緑会では、反復や詰め込みで一時的な成果を求めるのではなく、理解の土台を育てながら、子供が「自分で分かった」「自分でできた」と感じる経験を重ねることを重視しています。その過程で、理解力・記憶力・表現力だけでなく、好奇心や自律性、決断力も育まれ、それが自信と自立につながると考えています。



▲聞くのも真剣!

(1)小学受験クラス:幼児期の幼稚園・保育園、ご家庭での生活の大事さ

●四季の理解:実際に公園や園内の植物や昆虫動物を見て、触れて、五感を使い、七夕や七五三などの行事を通しながら四季の違いや特徴を学び、記憶に残る理解へつなげます。

●言語や数の指導:しりとりなどのゲームを通じて接頭語や接尾語、言葉のやり取りや教具の活用を通して、分類や順序などの基礎概念を無理なく身につけます。

●図形・巧緻性の育成:点結びや塗り絵、は

さみ・のりの活動を通して、巧緻性を高め、手先の感覚や集中力を養います。

●口頭試問・面接の土台づくり:「何が好きですか?」「家族は誰がいますか?」など身近な問いに答える経験を重ね、自分の考えを言葉で表す力を育てます。

●家庭も含めた三位一体:挨拶・返事をする。靴は脱いで揃える。紐靴を結ぶなど、生活習慣も含めて支え、子供が安心して自立へ向かえる環境を整えます。

自分のことを自分ですするという日々の積み重ねが、幼児期の自立の第一歩になります。

(2)能力開発クラス:試行錯誤を通して「考える型」を身に付ける

●能力開発トレーニング:図形パズルや思考課題を通して、学習理解の土台となる力を育てます。

●教具を使った体感的な指導:お金タイルやメジャー、マスを通して、視覚や体感に訴える教材を用い、自分で気づき、考えるきっかけをつくります。

●テキスト演習:スモールステップで学びを積み重ね、原理原則を自ら見つけられるように促します。

●知育ゲームで定着:学んだ知識を使う経験をを通して、理解を生活感覚へ結びつけます。

●結果より過程を評価:速さや量ではなく、自分で考えて取り組んだ過程を重視し、自信につなげます。

こうした流れの中で、子供は「自分でできた」という実感の積み重ねていきます。

その実感が、試行錯誤しながら次の課題へ向かう力になります。

1.低学年に土台として育てたいこと

小学受験と能力開発では内容は異なっても、子供が自ら考え、悩み、その場に応じて行動できるようにすることを共通の目標としています。

こうした力こそが、これから先を生きていくうえで

土台になると考えています。

2.低学年で特に意識したい指導のポイント

GWが終わり、学習に慣れて進んでくると、難しい課題に直面して「行きたくない」「しんどい」と感じる子が出てくる場合があります。

しかし、それは成長の過程では自然な反応でもあります。

好きなことでも始める直前に気が進まなくなるように、子どもにも気持ちの揺れがあります。大人であってもそのような揺れはあり、楽しみにしている旅行であっても行きたくなくなることが前日などに往々にして起こります。

立教大学名誉教授で観光社会心理学専攻の前田勇教授によれば、非日常へ向かうプレッシャーと日常を手放すことへの一時的な不安が原因となり、一時的に憂鬱になると説いております。

大人ですら楽しいことですら憂鬱になるのに、幼児も同じで、ましてや勉強するときはそのように感じることは当然の帰結です。そのような時は、スモールステップで「できた」という経験を増やし、ときには気分転換も取り入れながら、再び前向きに取り組めるよう支えます。

悩んだり逃げたくなったりする経験も、成長には大切な過程です。

こうした経験は、将来の大事な場面で落ちついて自分を支える力となり、「自分ならできる」という自己肯定感にも繋がります。

その場で気持ちが追いつかない日があってもかまいません。

大切なのは、そこで諦めず、少しずつ乗り越える経験を重ねることです。

万緑会では、ただほめるのではなく、努力して乗り越えた成長をしっかりと認めることを大切にしています。

おわりに

教育の目的は「自立」だと考えています。自立とは、言われた通りに動くことではなく、状況を見て自分で考え、選び、行動し、必要に応じて修正できることです。だからこそ低学年には、知識を増やすだけでなく、「なぜ」「どうして」と考える習慣を丁寧に育てることが大切です。その習慣が、将来の成長を支える土台になります。



▲食べちゃだめだよ~